

第 127 回技術士包装物流会関西支部研究会議事録

平成 28 年 4 月 17 日
関西支部長 福喜多俊夫
作成 森川 亮

開催日時 : 平成 28 年 4 月 14 日 (木)

〈〈研究会〉〉 18:00~19:00 〈〈懇親会〉〉 19:00~20:30

開催場所 : 大阪府門真市 パナソニック企業年金基金「松心会館」

〈〈研究会〉〉 2F 研修室「4」 〈〈懇親会〉〉 1F レストラン

出席者 : 福喜多、前田、川崎、富士、岡田、高垣、森川、寺岸、桃川、佐伯、下茂、平岡、野上、山崎、今田、
本山、米田、江口、藪、北居、菊池、有本、平、塙 合計 24 名 (順不同・敬称略)

◆研究会:

前田副支部長挨拶

1) 新入会員の紹介を実施。塙様、有本様、菊池様。3 名各々自己紹介を実施し、拍手によって迎えられた。

福喜多支部長挨拶

2) ウズベキスタン訪問を紹介された。同行したい場合は連絡して下さい。

◆講演会:

演題:「モンゴルの経済と物流事情について」

講師: 福喜多俊夫様 当会会員 関西支部支部長

モンゴルを視察された。その体験などに基づいて、5 つの観点から説明いただいた。1. モンゴルの国情、2. モンゴルの政治状況、3. モンゴルの経済状況、4. モンゴルと日本の関係、4. モンゴルの物流事情についてそれぞれ説明された。在モンゴル日本大使との会談も踏まえた情報をもとにモンゴルの現状を説明いただいた。さらに現地での実体験を含めて通常では知り得ない貴重な現状を説明いただいた。

- ①モンゴルの地理的な説明をされた。人口 300 万人。そのうちの約 1/3 (100 万人) が首都ウランバートルに住んでおり、ほぼ一極集中である。
- ②ロシアおよび中国に挟まれた内地が故に外交は難しい。共和制であるが大統領制との併用である。チベットとの交流は現在はある。また、末子相続という体性である。欧州の進出が過去歴史にあり、モンゴルが分離独立した経緯がある。1990 年にロシアの経済的混乱に際して独立している。
- ③モンゴルは諸外国からの資金援助を導入し難い風土である。これは、在モンゴル日本大使との会談による。モンゴルは内地であるためロシアと中国の 2 国間のバランスを鑑みなければならない。ただし、最近はロシアへの輸出は減少傾向であり、中国への輸出が増加している。また、モンゴルの台所事情は厳しいようであり、第 2 のギリシャになる可能性を秘めているとの事。2013 年までは経済成長率が 2 桁であったが、2014 年は失速し、7.8%である。さらに外貨準備は輸入 3 ヶ月分のラインである。これらの対策として外資投入による開発も挙げられるが総じて止まっている。例えば、タバントグ炭田やオヨトルゴイ銅山開発である。
- ④国際空港はウランバートルのみであり、北京へ通じる 400 キロの直線道路 (いわゆる AH) が整備されている。トラックでは効率が悪いことから鉄道も中国に合わせて建設している。なお、ウランバートルから日本港へは約 21 日間の物流サイトである。モンゴル→ウラジオストク→神戸、あるいはモンゴル→天津港→横浜など。
- ⑤他にも多くの実体験を踏まえた説明を頂いた。自動車は日本製が多く、相撲の日馬富士の人气が高いということでした。

◆懇親会:

4 月 14 日 (木) 19:00-20:30 出席者: 22 名 松心会館 1F レストラン

川崎様の乾杯の音頭により開会し、福喜多講師を囲んで話が弾み、平様の中締めで閉会した。

◆次回研究会予定:

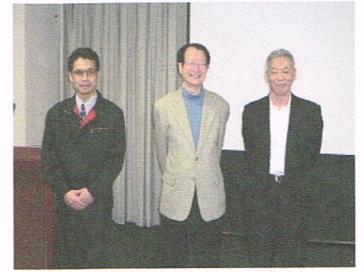
2016 年 6 月 8 日 (水) 場所: オムロン工場



挨拶と講演する
福喜多支部長



受講風景



3名の入会者：右から
塙様・有本様・菊池様

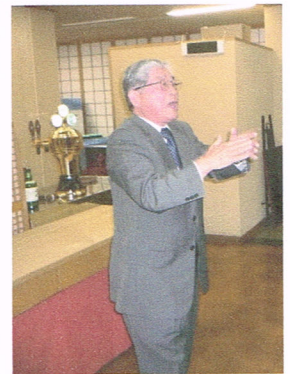


乾杯の音頭
川崎様



懇親会風景

No-2



中締めの
平 様